

多宝会新聞

発行所
社会福祉法人多宝会
本部事務局広報室
福島市本町4-23
024-522-6611
mail
honbu@
tahokai.
jp

地域とともに考える 終の住処の選び方

去る10月17日、福島市男女参画センターにて、福島市内の消費者団体が相互に連携・協調し、地域住民の消費生活の質的向上を目指すことを目的とした協議会「福島市消費者団体懇談会」による学習会が開催された。

当日は、本部事務局次長の山本龍也が講師として登壇し「介護施設いろいろ、終の住処の選び方」という題目で講演を行った。近年、福島市内には特別養護老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム等、さまざまな形態の高齢者向け施設が存在しており、その数は150以上にのぼる。高齢者やその家族が、どの施設が自分に最も適しているのかを判断

するのは容易ではなく、情報の不足や制度の複雑さ、金銭的な問題等から、選択に迷うケースが多く見受けられる。こうした背景を踏まえ、今回の学習会が企画された。

講演ではまず「なぜ高齢者施設が必要とされるのか」という根本的な問いに対する解説から始まった。高齢化が進む現代社会において、身体的・精神的なサポートを必要とする高齢者が増加していること、また家族構成の変化や地域コミュニティの希薄化により、在宅介護が困難になっている現状が紹介された。

続いて、介護が必要になった場合にどのような手続きや選択肢があるのか、実際に施設へ入所する際にはどのようなサービスが提供されるのか、また費用面ではどの程度の負担が生じるのかなど、具体的な事例や統計データを交えながら、分かりやすく説明が行われた。さらに、介護が必要になる前段階での予防的取り組みとして、福島市が実施している介護予防事業「湯つたりのデイサービス」の紹介もあり、参加者の関心を集めた。講演後の質疑応答では「夫婦で入居できる施設はあるのか」「どうすればスムーズに入居できるのか」等、参加者の関心の高さが伺えた。予定の講演時間を

大幅に超え、盛会で幕を閉じた。

講演を終えた山本氏は、「皆さんがこれほど関心を示してくださるということは、それだけ将来に対する不安や疑問を抱えている証だと思う。私自身、初めての講演で非常に緊張したが、今日からは少し安心して眠れそうだ。」と語り、会場を暖めた。

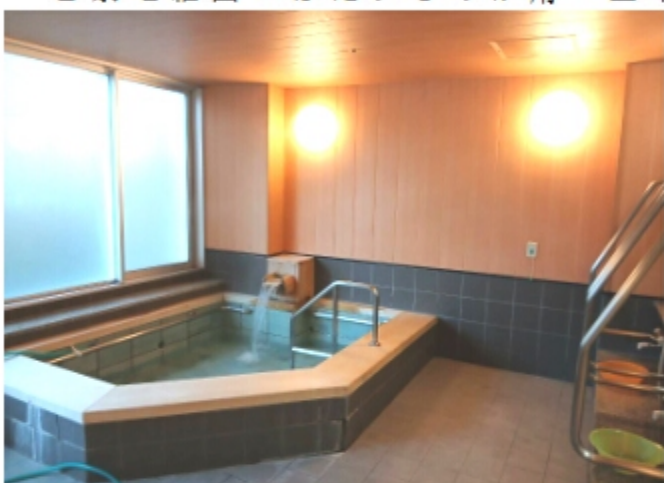
講演ではまず「なぜ高齢者施設が必要とされるのか」という根本的な問いに対する解説から始まった。高齢化が進む現代社会において、身体的・精神的なサポートを必要とする高齢者が増加していること、また家族構成の変化や地域コミュニティの希薄化により、在宅介護が困難になっている現状が紹介された。

去る10月15日アリヴァール宝生園にて、地域住民の皆様13名が参加する「カフェ・たから」が開催された。最初に株式会社ハッピーケア営業推進室 室長 渡部正幸 様が講師となり「日常生活の注意点と福祉用具」を題目として講演が行われた。日々の生活の中で、転倒しやすい場所や原因等を、スライドにて実際の家屋を参考にしながら、日常の注意点を講話後、転倒防止をするための杖の正しい持ち方や長さ、手すりをつける場合は壁の色と違うものを付ける等、転倒防止に資する福祉用具についての説明があった。その後、お茶会が開催され「住み慣れた家だからこそ、これからは気をつけよう」「この前、こたつ布団で転倒した方が居た」等、参加者が日頃から関心を寄せていることも幅広く伺うことが出来た。

約一時間の講話・お茶会の予定だったが、所定の時間を大幅に超えるほど盛会となった。齊藤夕子施設長は「参加された方が、地域包括支援センターの職員に、近所にお住まいの方の心配事を日頃から相談されており、こうした場の提供が役に立ち嬉しく思う。」と笑顔で感想を述べた。

「宝湯（ほうゆう・foryou）サービス」再始動

約3年前まで、土湯温泉の源泉を輸送し、温泉入浴を楽しんで頂く「宝湯サービス」が行われていたが、タンクローリーの老朽化により廃車を迫られ、温泉の輸送を行うことが不可能となった。また、コロナ禍や円安の影響により、車両の購入が困難を極め、長期間にわたり、サービス再開の目処が立たない状況が続いた。しかし、世の中の情勢が比較的正常化する中、奇跡的に新たなタンク車との巡り合わせがあり、ご利用者や施設のスタッフにとつて待望の出来事となった。納車後、12月中は試運転を行い、1月より本格稼働予定である。土湯温泉の源泉100%である「宝湯（ほうゆう）」は、デイサービスセンターまちなか宝生園のご利用者に「宝湯（foryou）」される。まちなか宝生園安西施設長は「またご利用者に、土湯温泉の美肌の湯を楽しんでいただけることが、大変に嬉しい。」と声を弾ませていた。源泉を運搬するタンクローリー車は、土湯温泉停留場から約2キロ離れた源泉から直接タンクに注入し、そのまま施設に運ばれる。ようやく「源泉の力」で心も体もフレッシュにできる「宝湯サービスセンター」が、まちなか宝生園に復活するが、今後は、より安定した温泉供給を継続できるよう、安心安全のサービス提供を行い、地域の高齢者の皆様にとつて、日常の中で本物の温泉を源泉かけ流しで味わえる「市街地のオアシス」となるよう努めてまいりたい。



日本語学習支援 ネットワーク会議2025 in 福島に参加

去る9月7日テルサホールにて、外国人にも暮らしやすい福島を目的とし「日本語学習支援ネットワーク会議 in 福島」が開催された。会議のなかの分科会では「日本で介護職員として働く外国人と日本語」と題して、まちなか宝生園課長補佐の咲田卓美とイトエーアウンが事例報告を行った。

報告後の質疑応答では「日本と文化の違いで困ったこと」「外国人採用で意識したこと」など、時間が制限されるほど、活発な意見交換が行われた。始まる前は緊張していた彼女達だが、分科会終了後は「逆にいろいろな話が出てきた」と笑顔で感想を述べた。



令和7年度第一回苦情解決第三者会開催

去る9月19日まちなか宝生園こころホールにおいて、苦情解決第三者委員、苦情解決責任者、苦情解決担当者が一同に会し、令和7年度第一回苦情解決第三者委員会が開催された。始めに鈴木専務から挨拶があり、その後各事業所から、上半期に寄せられた苦情の報告がなされた。報告された事例に対し、活発な意見交換が行われ、最後に苦情解決第三者委員からは「迅速なスタッフの対応が、大事に至らなかったと思うが、今後も苦情はあると思うが、引き続きご利用者に寄り添い、より良い運営をお願いしたい」と、スタッフを労う言葉もいただき、一切が終了した。

第41回理事会開催

去る9月30日まちなか宝生園会議室において、第41回理事会が開催された。冒頭加藤理事長より「歩みを止めず、時世の流れに対応しながら運営をしていく」と挨拶があった。Window 10のサポート終了に伴う、パソコンの入替の業務契約締結を議題とし、その他業務執行状況報告があった。最後に菱沼監事より「人材確保が厳しいなか、採用後の教育も必要であるので、職員教育にも力を入れて欲しい」と講評があった。



▶本部事務局次長 山本龍也



施設的话题をいち早くお届けする

多宝会 HOT LINE

祝ケアハウス敬老の集い

今年の敬老の集いでは、卒寿1名、米寿3名の方に表彰され、それぞれの方から長寿の秘密を伺い、和やかな雰囲気です式典が終了。その後、華やかな食事に、各テーブルで会話が弾みました。最後に思い出を振り返るスライドを堪能し、笑顔で包まれた敬老の集いでした。



祝デイサービス敬老の集い

喜寿、米寿、卒寿、白寿を迎えられたご利用者に、今後もお元気に過ごして頂くよう祈念し、表彰を行いました。その後、スライドショーを行いました。「四季の里や運動公園に行った時の写真だ」等、楽しかった一時を語り合っていました。



ハロウィンリース作り

ハロウィンのリースを作りました。あまり馴染みのない行事のことでしたが、配置などにこだわりながら真剣に取り組む様子が見られました。完成したリースと一緒に記念撮影後は、早速お部屋の前に飾る方もおり、楽しい時間を過ごされた様子でした。



土湯宝生園

デイサービスアップルパイ作り

リンゴの皮をむき、パイ生地を伸ばして、リンゴを包むまで、全ての行程を行いました。オーブンで焼くこと15分。甘い香りが広がる中「甘酸っぱくて美味しい」「香ばしくてなんぼでも食べられる」等、美味しく楽しい一時を過ごしました。



まちなか宝生園

祝特養敬老の集い

これからも元気に長生きをしていただけるようお願いを込めて、敬老の集いでお祝いをしました。職員の余興で南中ソーラン節を踊りましたが、アンコールの声も頂き、ご利用者の笑顔がたくさん見られた式典でした。



祝デイサービスの敬老の集い

今年の最高齢103歳のご利用者も交えて、敬老の集いを開催しました。お祝いと感謝の気持ちを込めて、紅白歌合戦を行いました。審査員はご利用者です！個性豊かな職員の余興で、笑いあり、涙ありの時間を過ごすことができました。



祝敬老の集い

102歳を迎えられた方を始め、卒寿4名、米寿6名、傘寿1名の12名の方に表彰を行いました。花束や記念品をいただき、笑顔で皆で記念写真。その後は、マグロや松風焼き、栗赤飯のお祝膳をいただきました。心もお腹も満足でした。



買い物イベント

買い物イベントを行いました。衣料品を中心に、ホールに所狭しと並びました。ご家族と一緒に買い物を楽しむ方、職員と一緒に「こっちの色がいいかな」「どれが似合うかな」と実際に手に取って、買い物を楽しみました。



音楽療法

唄を歌うことを楽しみにしている音楽療法ですが、藤井先生が弾いてくれるピアノの音色を楽しんでいる方もたくさんおり「今回はどんな曲が聞けるかな」「綺麗な音は気持ちがいい」と待ちきれない様子が伺え、会場は笑顔に包まれました。



アリヴァーレ宝生園

芋煮会

今年も芋煮会を開催しました。里芋や人参、大根を切ったり、おにぎりを準備したりと、利用者と職員で力を合わせて、美味しい芋煮を作りました。昼食は、皆で作った芋煮を秋の味覚秋刀魚と一緒に美味しくいただきました。



炊き出し訓練

8階こころホールで、自然災害を想定した食事提供訓練を行いました。簡易コンロで芋煮とご飯を炊き、玉子や焼きそば等を作りました。デッキから見える吾妻山を眺めながら食べる時間は最高でした。炊き出し訓練でしたが、皆さん楽しんでおられました。



自然災害避難訓練

施設全体で巨大地震を想定し、ご利用者の安否確認と避難誘導訓練を実施しました。エレベーター停止の想定をし、ご利用者が不安にならないよう、ご利用者の立場となり、より安全且つ速やかな避難誘導を行いました。備えあれば患いなし！



祝敬老の集い

90歳の卒寿の方が2名おり、表彰されました。最初は「別にいいよ」と照れくさい様子でしたが、皆様からのお祝いの言葉をもらい「ありがとう」と喜ばれていました。その後はお祝膳に舌鼓を打ち「来年も楽しみだね」と終始笑顔で笑顔でした。



紅葉ドライブ

紅葉狩りに出掛けました。運動公園、四季の里、土湯温泉街をドライブし、土湯宝生園で昼食をとりました。生憎の雨でしたが普段と違う場所での食事、外の景色を眺めたり、談笑したりと楽しめました。帰りに、土湯温泉饅頭を買って帰りました。



芋煮会

前日から白菜を切って漬物を作ったり、当日も里芋や人参を切ったりし、芋煮を作り、おにぎりを握ったりしました。料理は皆さんお手の物で、普段とは違った元気の良さで手際よく作りました。張り切って作りすぎて、昼食、夕食にもなりました。



収穫祭

畑のさつま芋を収穫しました。今年のさつま芋は、葉っぱはたくさんありましたが、量は少なかったようです。その分、甘さはピカールでした！皆でホットプレートで大学芋を作り、皆さんの胃袋にあっという間に収まってしまいました。皆さん本当に料理上手です。



ほのぼの宝生園

まちなか宝生園施設見学会

去る9月18日にまちなか宝生園に公益財団法人介護労働安定センターで実務者研修受講している25名が、見学に訪れた。居室や浴室、理美容室を見学後、こころホールにて生活支援課長補佐の咲田卓美より、スライドを交えながら、説明が行われた。現在、介護労働安定センターでは、初任者研修や実務者研修等の研修が行われており、研修理由も実際に介護に携わっている方、これから携わる方、将来のご家族の介護の為に研修している方等、理由は様々であるが、介護に興味を持っていることには代わりはない。研修後、介護業界に携わってくれることに、大いに期待したいところである。



各種ご相談は各施設までお気軽にどうぞ、見学等も随時お受けしております。

土湯宝生園 024-594-5900

西部地域包括支援センター

024-594-5800

アリヴァーレ宝生園 024-594-0061

土湯宝生園指定居宅介護支援事業所 024-594-5902

ほのぼの宝生園 024-594-0063

湯ったりデイサービス 024-594-5900

まちなか宝生園 024-521-1122

法人本部事務局 024-522-6611

URL <https://www.tahokai.jp> Mail honbu@tahokai.jp